

その時、飛行場とともにあったもの

高校生が紡ぐ、未来へのメッセージ

高校生の探究学習が、全国で最高賞を受賞！

戦時中、矢板市内で秘匿飛行場の建設が進められていたことをご存じでしょうか？戦争末期に建設が始まったその飛行場は、完成することなく終戦を迎えました。現在、その場所は住宅地となり、当時をしのばせる面影はほとんど残っていません。関係する資料も少なく、長く地域に埋もれてきた、矢板市の「知られざる歴史」です。

今回、矢板東高校リベラルアーツ同好会の生徒たちは、かつて市内に存在したとされる「御前原秘匿飛行場」をテーマに、聞き取りや資料調査、現地でのフィールドワークを重ねました。その成果は、2月に開催された全国大会「徳島歴史文化フォーラム」で、探究の手法や着眼点などが高く評価され、最高賞となる最優秀賞を受賞しました。

81回目の終戦記念日を迎える今号。郷土に残る戦争の歴史と向き合った高校生たちは、何を見つけ、何を感じたのでしょうか。探究を通して見えてきた人々の暮らしと平和への想い、そして未来へ紡ぐメッセージを紹介します。

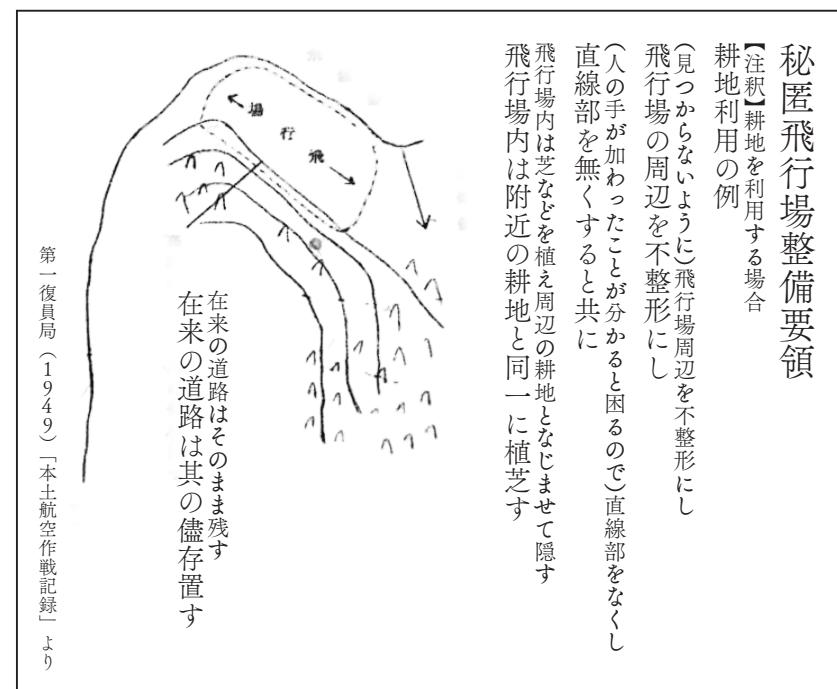
秘匿飛行場とはどんなものだったのか？

宇都宮飛行場や金丸原（大田原市）飛行場など、県内の主な飛行場を見学しました。それらの周辺には飛行機や兵器を隠す隠蔽用掩体壕などが戦争遺構として残っていて、当時の飛行場の様子を想像することができました。

戦争末期になると、日本本土も米軍の空襲を受けるようになったことから、飛行場を分散させ敵機から発見されないように飛行できる場所が必要になりました。そのために建設されたのが埼玉飛行場（那須塩原市）ですが、もう1つの候補地となったのが御前原付近（現在の矢板東高校の南からデカーレ矢板の北付近までの地域）であったと資料に記されていました。



▲金丸原飛行場跡地にある飛行機掩体格納庫。現在は「那須野ヶ原カントリークラブ」の倉庫として活用されている



通学路が滑走路！？

戦争は、日本のどこかで行われた昔の話だと感じていたのに、毎日通っている学校のすぐ横の道路が秘匿飛行場の滑走路だと知って驚きました。戦争が、身近かつ実際にあったことだと再認識しました。



矢板東高校 リベラルアーツ同好会「チーム秘」

八木澤 陵介 さん 手塚 寛乃 さん 東泉 伊奈 さん 安藤 慶人 さん

Liberal Arts
リベラル・アーツって

何？

リベラルアーツは、科学や文化、社会などの幅広い分野でより深い専門知識を習得するための学習方法です。矢板東高校リベラルアーツ同好会では、人文地理学分野や自然科学分野での学びを中心に、生徒の自由な発想で問題提起し、その探究を深めています。

COVER 表紙の写真

表紙は、生徒たちと一緒に戦没者の位牌などが納められている長峰霊苑を訪れた時の様子です。

長峰公園内にあるこの場所では毎年、遺族会などが参加し戦没者追悼式が行われています。今年は10月28日(水)11:00から開催予定です。



Yaita vol.1196 広報やいた 2026 年 8 月号

CONTENTS 目次

- 2 特集 その時、飛行場とともにあったもの ほか
- 10 石仏案内帖 ほか
- 12 TAKUYA キッチン ほか
- 14 今月のニュース&トピックス
- 16 子育てひろば
- 18 はつらつ通信
- 20 市からのお知らせ
- 28 ゆかりびと・編集後記

POPULATION 人口 (7月1日現在)

29,440 人 (△24)	出生 6 人
男 14,726 人 (△8)	死亡 37 人
女 14,714 人 (△16)	転入 73 人
13,388 世帯 (1)	転出 66 人
() 内は 6 月 1 日との比較	※住民基本台帳をもとに算出
△は減	

聞き取り調査で見てきた御前原飛行場

〈現在の地図で位置を推測〉



地域の方の協力で取材に成功！

滑走路の道路脇の家を1軒1軒、聞き取り調査をしました。滑走路だったことを知らない方が多くて情報集めに苦労しました。小林さんと赤羽さんを紹介してくれた郷土史研究家の白石さんのおかげで、調査が大きく前進しました。

INTERVIEW

小林 充さん（88歳）

ちょうど小学1年生の時に、御前原に飛行機がやって来るというので見に行きました。今の山木屋辺りからだと思いますが、南に向かって飛んでいきました。そのタイヤ跡が大きくへこんでいたことを今でもハッキリと覚えています。その後間もなくして終戦となりました。



INTERVIEW

赤羽 豊子さん（101歳）

飛行場の北の端は、現在のわかば通りで、ここから南に向かって一直線に滑走路が作られていました。この間に民家は1軒もありませんでした。当時私は16歳で矢板駅の改札係として勤務していました。昭和20年に米軍がやってきて、駅東にあった秋田木材工業（株）に爆弾を落としていったことを覚えています。



戦後80年、語り継がれたもの。そして新たな疑問へ。



▲県立博物館で開催された特別企画展へ



▲（左）宇都宮陸軍飛行場の特別操縦見習士官による操縦手簿（宇都宮市蔵）、（右）宇都宮市に落ちた焼夷弾

昨夏戦後80年を迎え開催された企画展に出向き、当時の人々が戦地に飛び立つ飛行機に夢中になっていることを知りました。操縦見習士官の日記には、「始メテ地球カラ足ガ離レタ」「最後ノ目的地ハ無限ノ彼方ニアリ、努力・邁進セン」と書かれていて、当時の国民はみんなが戦争に肯定的で、国に自らの命を懸けて奉仕することに否定的な意見がほとんどないことに疑問を持ちました。矢板高校の『矢高七十年誌』の中には、飛行場建設に動員された女学生のコメントがありましたが、勤労動員に対しての後ろめたい気持ちなどは全くなく、思い出話として表現されていました。飛行場を建設することで、敵国から狙われる危険性が高まるはずなのに、何が当時の国民を戦争に突き動かしていたのだろうか。新たな疑問を解決するため、さらに研究を進めました。

戦争色に染められた日常

雑誌の表紙や絵はがきの柄など、日常を切り取った1ピース1ピースにさえ戦争とつながるものが写り込んでいて、生活が戦争色に染まっていると感じました。勝利するため、さまざまな制限がかかる中で懸命に生きていた当時の人の姿が思い浮かびました。



県内高校史から読み解く、軍国主義教育が強まった教育現場

栃木県中等学校報国団綱領（昭和16年9月制定）

- 一 我等ハ字内唯一ノ天皇ヲ仰ギ、五稜威ニ生レ、五稜威ニ死ス。
- 一 我等ハ天皇ノ学徒ナリ、雄大ナル気宇ト剛健ナル体トヲ錬磨ス。
- 一 我等ハ報国団旗ノ下、挺身、大東亜建設ニ邁進ス。

＊宇都宮高校『百年誌』より

【注釈】

- 一 私たちは、この世で唯一の天皇を敬い、そのご威光の下に生まれ、そのご威光の下に死ぬ
- 一 私たちは天皇に仕える者として、強い精神と体を作るため鍛錬しなければならない
- 一 私たちは国のために身を捧げ、大東亜の建設に全力で尽くす

中島飛行機宇都宮工場への勤労動員があった宇都宮高校の『百年誌』には、昭和16年9月に県中等学校報国団綱領が制定され、毎日朝礼時に、奉答文を斉唱するようになったことが記述されていました。また学校行事として、宇都宮飛行学校の見学・甲種飛行についての講演会への参加・甲種飛行についての映画観覧・戦争参加者からの実践談話などの行事が増えていたこと、戦時下の戦闘精神の強調や大東亜戦争の理想に欠けていることを理由に第二校歌が作られていたことなどから、軍国主義が強まったことが読み取れました。

金丸原飛行場への動員があった大田原高校の『大高七十年誌』には、昭和17年度の入学試験の記述があり、その内容は「天皇」「飛行機」などに関する質問が多く見られました。県文書館で他の高校の校史資料も調べましたが、この時期の入学試験の様子が記載されている例は見つからず、国や県で統一されたものであったかどうかは不明でした。

高校生ならではの視点

歴史文化フォーラムの講評では、「入学考査」から当時の社会情勢を考えた点が、高校生ならではのユニークな視点ということで、高評価をいただきました。



今と全く違う高校生活

戦争が激化するにつれて、学生へ向けた戦争参加への働きかけが増えたことが分かりました。80年前の高校生の学校生活は、私たちとは全く違って、興味深かったです。



〈昭和17年度の大田原高校の入学試験問題〉

第二日 口頭試問

- 一 今の戦争はこれまでの戦争とどうちがいますか。（要スルニ飛行機ガ加ツタコトガ大キイ違ヒデスネ。）
- 一 一般に飛行機には、どんな種類がありますか。
- 一 飛行機を飛ばせるのに一番大切な物は何ですか。（石油でせう）
- 一 石油は世界のどこに出ますか。（アメリカ、ボルネオ、スマトラ等ですネ。）



＊大田原高校『大高七十年誌』より

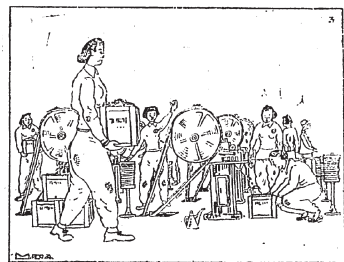
下野新聞から読み解く、メディアを使った思想統制

当時の下野新聞を調べると、毎日のように軍事ニュースが掲載されていたほか、戦時中の女性の理想像として、県内工場に勤務する様子を紹介する記事の連載コーナーなどがあり、国民の戦争への士気を保つことを目的に掲載していたと考察しました。

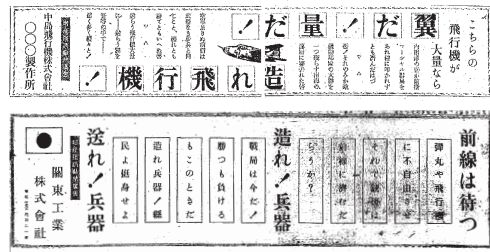
〈当時の下野新聞〉



▲昭和19年2月7日発行
航空機の飛躍的な増強は、戦争勝利への鍵であると記されている。



昭和19年2月7日発行
航空機の飛躍的な増強は、戦争勝利への鍵であると記されている。



▲昭和19年頃の広告欄
中島飛行機株式会社や、関東工業株式会社は、県内の軍需工場として飛行機の製造について強い言葉で訴えていることが分かる。

◀昭和19年2月7日発行
連載コーナー「女性敢闘譜」。工場で働く女性の姿と共に「飛行機を送れ！」の文字が読み取れる。

平和を語り継ぐ責任



矢板市遺族会長
岡崎 トシ さん

多くの犠牲の上に築かれた平和

何より戦争を二度と繰り返さない世の中であってほしいと願っています。しかし、今も世界では戦争が繰り返され、多くの尊い命が失われています。国のためと信じて戦地へ赴いた人たち、その時代の思想に翻弄された人たちは、どんな想いで日々を過ごしていたのか。そのことを忘れてはいけません。今の日本の平和は、多くの犠牲の上に築かれたものです。この平和を長く守っていくために、自分に何ができるのかを考え続けたいと思っています。



未来へつなぐために

一方で、戦争を体験した人たちにとって、その記憶はあまりにも残酷で、語りたくても語れないほどつらいものでもありました。だからこそ、若い世代が戦争を学び、今の時代に合った形で後世へ伝えていってくれることを、とても心強く感じています。今回、高校生の皆さんが地域の歴史に関心を持ち、自ら調べ、考えてくれたことを本当にうれしく思いました。私も遺族会の一員として、自分にできることを模索しながら、戦争の記憶と平和への願いを未来へつないでいく責任を果たしていきたいと思っています。

戦争が覆い尽くせなかったもの

御前原秘匿飛行場を探して見えてきたのは、戦争という時代を懸命に生きた矢板市の人々の姿でした。そこには、記録として残されることのなかった歴史があり、一人ひとりの日々の暮らしがありました。調査を進める中で、戦争は新聞の広告欄や絵はがきの図柄など、日常の隅々にまで入り込み、人々の暮らしを戦争色へと染めていたことに気付きました。それでも、出征する兵士の無事を願うお守りが作られていたように、家族や友人を思う気持ち、ささやかな幸せや青春も確かにそこにありました。戦争は多くのものを奪いましたが、人が誰かを思い、日々を生きようとする営みまでは奪うことができなかったのだと思います。その「人の営み」が守られていること——それこそが、平和なかもしれない。そんな一つの答えにたどり着き、私たちの探究は次の一歩へとつながっていきます。

年々、戦争を体験した人は少なくなり、戦争遺構や史資料も私たちの目に触れる機会は減りつつあります。しかし今回の探究を通して、戦争を知らない世代だからこそ見つけられる視点があることに気付きました。身近な歴史に目を向け、自分の目で確かめ、自分の心で考える。その積み重ねが、過去を未来へ受け継ぐ力になるのだと感じています。

未来へ紡ぐ探究

「女性の勤労働員」を研究した先輩たちの発表で、「矢板市に飛行場があった?！」という驚きと好奇心から、私たちの調査は始まりました。御前原秘匿飛行場を入口に調べていくと、戦争中の社会や暮らし、そして当時の新聞や広告など、メディアが果たした役割まで、調べるほどに、新たな疑問や発見が次々と生まれました。先輩たちの学びが私たちの新たな一歩につながったように、今度は私たちの研究が、誰かの「知りたい」という気持ちを生み出すきっかけになればうれしいです。フィールドワークでは、多くの市民の皆さんから貴重なお話を聞かせていただきました。この探究は、地域の皆さんのご協力があってこそ完成したものです。心より感謝申し上げます。



求ム!

秘匿飛行場に関する情報をお寄せください

御前原秘匿飛行場は、秘密裏に建設が進められ、完成することなく終戦を迎えたため、当時の様子を伝える資料がほとんど残されていません。また、秋田木材工業(株)への空襲についても、詳しい記録は限られています。

今回の探究では、多くの市民の皆さんから貴重なお話を伺うことができましたが、まだ解明されていないことがたくさんあります。写真や資料、当時の出来事を聞いた記憶など、どんな小さな情報でも構いません。お心当たりのある方は、ぜひ下記まで情報をお寄せください。皆さんからの情報が、新たな歴史の発見や、未来へ紡ぐ探究につながるかもしれません。

問い合わせ／秘書広報課(43)3764

矢板市生涯学習フェスティバル

スピンオフ企画

探究発表会

夢中人(仮)

集え!発表者!あなたの夢中がだれかの未来になる

2026 12/19 10:00-17:00 SAT

探究・挑戦・対話の祭典
7分で伝え5分で世界が広がる
互いの夢中をおもしろがれる
多世代交流イベント

① 発表: 7分

② 質疑・対話: 5分

③ 入替: 2分

私たちの探究は...

探究テーマ

なぜこの方法を選んだの?

それほですわ

ありがとうございます!次のご挨拶へGO!

ポスターの前で、探究の内容を7分間で伝えます。

質問や意見をもらい、対話を通して探究を深めます。

次の人と交代します。次のポスターへ移動しましょう。

これを4回で1セット!(全3セット)

県内外のやる気ある高校生募集!

大好き・夢中になっている小中学生も!もちろんだ人々も!

募集期間 9~11月下旬 予定
生涯学習フェスティバル事務局(生涯学習課) ☎43-6218



矢板中央高校 サッカ一部



心を一つに、日本一を目指す

昨年のチームは、能力の高い選手が多くいました。一方、今年は飛び抜けた選手はいませんが、その分、一人ひとりが自分の役割を理解し、全員が同じ方向を向いて戦えるチームです。団結した時の力は昨年以上だと感じています。県予選決勝では、昨年敗れた相手との対戦でした。悔しい思いを経験していたからこそ、「絶対に負けられない」という強い気持ちで試合に臨み、全員で勝利をつかむことができました。チーム全員で積み重ねてきた力を全国の舞台でも発揮し、目標である「日本一」をつかみ取りたいです。

矢板高校 相撲部



悔しさを力に、目指すは決勝トーナメント進出

昨年の全国大会は予選敗退という悔しい結果に終わりました。その経験を糧に、細かな動きまで意識しながら練習を積み重ねてきました。私たちは国民スポーツ大会への出場も決まっており、今回の大会で得た経験を次の舞台につなげたいと考えています。一つでも多く勝ち上げられるよう、最後まで全力で土俵に立ちたいです。日頃の練習では、後輩の「負けたくない」という気持ちに刺激を受け、自分たちも成長することができました。厳しく指導して下さる先生や、切磋琢磨してきた仲間への感謝を胸に、一戦一戦を大切に戦い、悔いのない大会にしたいです。

矢板中央高校 新聞部



伝える力を全国で磨く

全国高校総合文化祭に出場します。私は昨年9月に入部したばかりで、レイアウトや文章の書き方など、試行錯誤しながら新聞制作に取り組んでいます。現在は新聞部員が私1人のため、先輩方が残した紙面を手本にしながら、取材や記事作成の経験を積み重ねてきました。大会では、全国から集まった他校の生徒とチームを組み、3日間という限られた時間の中で取材や記事を制作し、その成果を発表します。普段は1人で活動しているからこそ、全国の仲間との交流を通して多様な考え方や表現方法に触れ、新聞制作の技術をさらに磨き、成長して帰ってきたいです。

矢板東高校 書道部



一文字ずつ、積み重ねた挑戦

高文連全国書道専門部 第50回記念大会に出場します。1年生で欧陽詢の代表的な楷書碑文『九成宮醴泉銘』に出会い、その書風に魅了されました。今回は、その息子である欧陽通が揮毫した「道因法師碑」を題材に選び、力強さの中にも気品を感じられる書風を表現できるよう、一画一画を丁寧に書き上げました。金泥（金粉を膠で溶いた墨材）を用いて制作したため、1時間で15文字ほどしか書き進められず、完成まで時間がかかりましたが、50回記念という節目の展示に選ばれ、とてもうれしいです。この経験を励みに、さらに表現力を磨いていきたいです。